

ワイルド全集決定版・R. Ross編 "The First Collected Edition" 待望の復刻!

# オスカー・ワイルド全集復刻版 (全15巻)

## The Collected Works of Oscar Wilde

Edited by Robert Ross

First Published 1908

Introduced by Dr Joseph Bristow

15 vols. boxed set 1993年刊行

ISBN 0-415-10584-6 セット価格 ¥190,000

(Routledge/Thoemmes Pr.)-UK-/日本総代理店: 紀伊國屋書店

世紀末耽美主義、唯美主義をその人生においても実践した、オスカー・ワイルドの全集が復刻されました。

本全集は、ワイルドの親友でもあった Robert Ross が 1908 年に編集した "The First Collected Edition" (14 vols.) です。この学術的にも大変貴重な版は入手困難となっていました。この度の復刻で研究者の方々にお届けできるようになりました。

今回の復刻では、"The First Collected Edition" に含まれていなかった戯曲 "For Love of the King" と Mason によるワイルド書誌が加えられています。尚、各巻の分売は致しておりません。予め御了承下さい。

### 《各巻の内容》

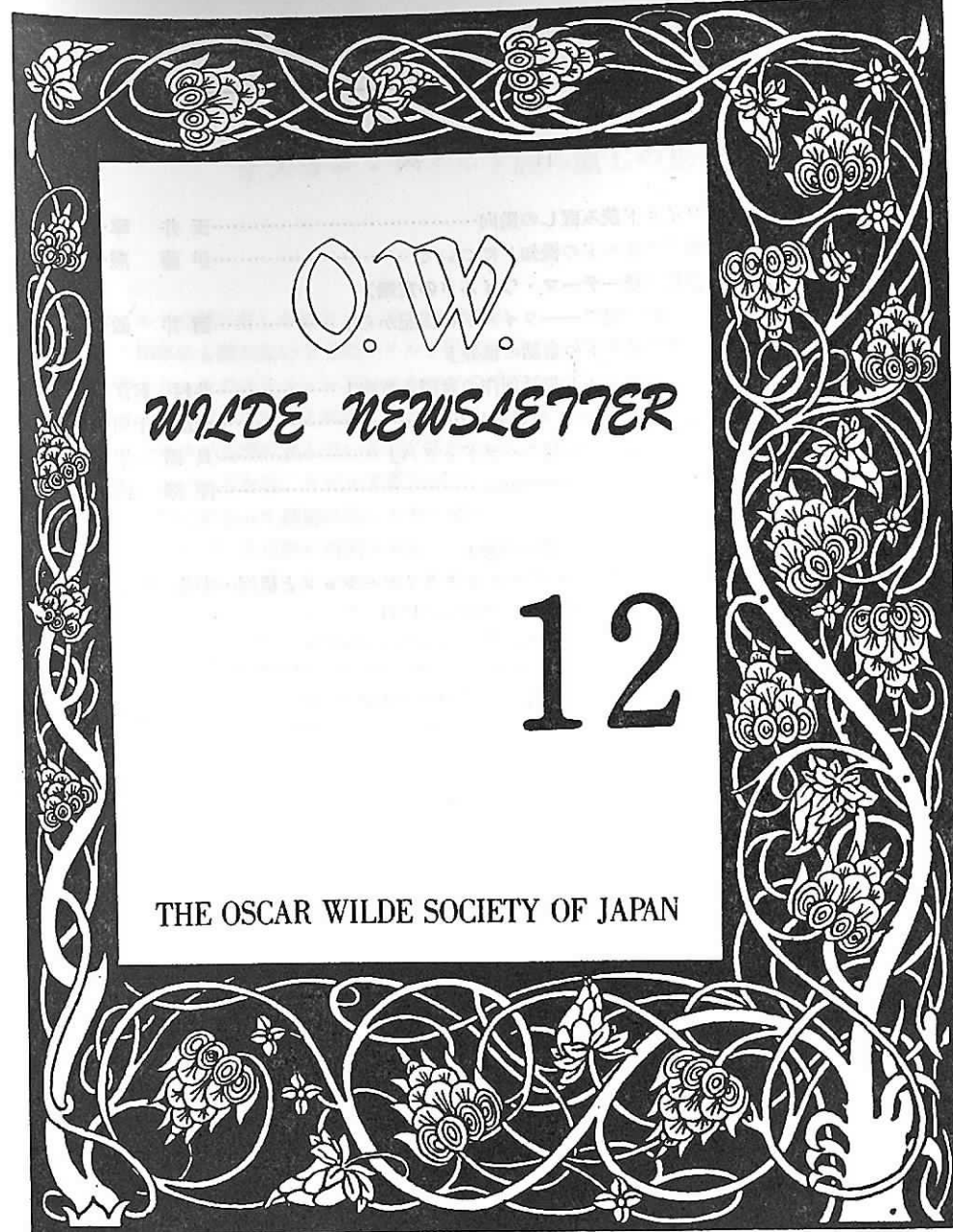
- |  |  |
|--|--|
| <b>Volume 1:</b> <i>The Duchess of Padua</i> 236p.                         | <b>Volume 9:</b> <i>Poems</i> 362p.  |
| <b>Volume 2:</b> <i>Salome, A Florentine Tragedy and Vera</i> 272p.        | <b>Volume 10:</b> <i>A House of Pomegranates and Other Tales</i> 270p.                                       |
| <b>Volume 3:</b> <i>Lady Windermere's Fan</i> 202p.                        | <b>Volume 11:</b> <i>De Profundis</i> 234p.  |
| <b>Volume 4:</b> <i>A Woman of No Importance</i> 210p.                     | <b>Volume 12:</b> <i>The Picture of Dorian Gray</i> 378p./ <i>For Love of the King</i> (published 1922) 60p. |
| <b>Volume 5:</b> <i>An Ideal Husband</i> 258p.                             | <b>Volume 13:</b> <i>Reviews</i> 576p.   |
| <b>Volume 6:</b> <i>The Importance of Being Earnest</i> 206p.              | <b>Volume 14:</b> <i>Miscellanies</i> 372p.  |
| <b>Volume 7:</b> <i>Lord Arthur Saville's Crime and Other Pieces</i> 278p. | <b>Volume 15:</b> <i>Bibliography of Oscar Wilde</i> by Stuart Mason (published 1914) 656p. illustrated      |
| <b>Volume 8:</b> <i>Intentions and the Soul of Man</i> 348p.               |  |

お問い合わせ・カタログ請求は最寄りの弊社営業所または下記まで



**紀伊國屋書店** 書籍部商品企画課 TEL (03) 3439-0161

〒156 東京都世田谷区桜丘5丁目38番1号 FAX (03) 3439-0839



## 目次

巻頭言 オスカー・ワイルド読み直しの動向	玉井 暲	2
西脇順三郎先生の講演「ワイルドの機知」について	伊藤 勲	3
第16回夏期セミナー要旨《統一テーマ・ワイルドの童話》		
第一日 講演「異端と正統の間で——ワイルドの伝記から」	酒井 敏	7
第二日 シンポジウム「ワイルドの童話の世界」		
「再考察の必要なワイルド童話創作の意図と意味」	井村 君江	9
「『想像的肖像』とワイルドの童話」	西垣 千明	11
「オスカー・ワイルドの童話のパラドックス」	貝嶋 崇	13
「ワイルドの童話と窓」	深澤 清	15
第18回ワイルド学会要旨		
研究発表「Wilde における愛の形象」		
——SALOME のキャラクターゼーションと構図	中島 恵子	17
研究発表「THE IMPORTANCE OF BEING EARNEST と TRAVESTIES における差異と異論」	伊勢村定雄	19
研究発表「Wilde の喜劇と COMEDY OF MANNERS ——大衆文化と芸術の接点」	原田 範行	20
講演「ニューヨークの世紀末」	巽 孝之	28
海外便り	井村 君江	25
関西支部局便り	堀江 珠喜	27
ワイルド研究会報告	佐藤 真二	28
ワイルド書誌		29
講演・研究発表・会員消息		31
ワイルド情報		31
ワイルドCD情報		33
協会からのお知らせ		37
夏期セミナー・秋期大会記録		39
日本ワイルド協会規約		40
編集後記		41

## 〈巻頭言〉

## オスカー・ワイルド読み直しの動向

玉井 暲  
(大阪大学助教授)

ワイルドの読み直しが始まったのを痛感する。

ここ10年にも満たないうちにワイルド研究をめぐる英米の状況が激変した。おそらくその契機となったのはリチャード・エルマンの『ワイルド』であろうが、このところ新しいワイルド研究が出ればとにかく買って置くというのを続けるあいだに、いつのまにか20冊以上の本が書棚に並んでいるのに気がついた。そのほとんどはワイルドについての個別の研究書であるから、ワイルド研究がいよいよ本格化したのを実感せざるをえない。

特に90年代に入って顕著になってきた傾向として、ジェンダー批評、あるいはセクシュアリティに基づいた研究が指摘できるように思われる。ワイルドにおける同性愛についての研究は、むしろ、無くは無かった。ただ、その研究のありようが、人間ワイルドと作品という二つの相異なる次元を設定して分化される傾向にあっただけに、ここに、ワイルドの人間、人生、作品を統合的に捉えるひとつの視点が提起されたと言えるのではあるまいか。ワイルドのテキストが、文学的、文化的、社会的、政治的といった幾つかのコンテキストの交錯し合うなかで読み直されることによって、そのラディカリズムが注目されている。この立場からの研究者には、イギリスでは Jonathan Dollimore と Alan Sinfield が代表であろう。アメリカ系では、Ed Cohen, Richard Dellamora, Christopher Craft, Jeff Nunokawa, Eve Kosofsky Sedgwick などが挙げられよう。

もう一つ見逃せないのは、ワイルドの劇を当時の演劇界や文化の状況とのコンテキストにおいて新しい意味を掘り起こそうとする試みである。あまり知られてない先行劇作品や、同時代に上演され好評であったが、出版されなかった作品との比較検討を行うなど、日本のわれわれにはできそうにない貴重な研究である。Kerry Powell がその代表であろう。

こうして見ると、最近の研究は、作品を文学固有のコンテキストから一度解放してやることをめざす傾向にあると、まずは言えそうだ。ここでひとつ留意すべきは、この解き放されたテキストが、文化、社会、歴史といったテキスト外の世界と交錯し、せめぎあい、意味を創出する磁場は、言葉においては他にはないということだ。言葉から遠ざかることへの警戒が求められよう。

新ワイルド全集は、イギリスの Ian Small が準備中という。Oscar Wilde Encyclopedia (AMS Press) は、アメリカの Karl Beckson が今秋、出版予定だと聞く。われわれの『オスカー・ワイルド事典』の編集・刊行が待たれるゆえんである。